

### 3 学期終業式講話

おはようございます。その場に腰を下ろしてください。

本日をもって3学期終了となります。2年生の皆さん、海外探究研修が終わって今日まであっという間だったでしょう。このあたりは月日のたつ早さを感じる時です。特に運動部活動をやっている方は、もう2年がたつのかという思いと、4月5月のインターハイ予選が近づいてきている焦りを感じて練習に集中力を欠くことが多いです。その分1年生はまだ1年あるという思いでかなりのびのびしたプレーを見ることができます。

さて本日の話の最初は、私が40年近く前にアメリカ東海岸に行ったことです。ちょうど夏休みの1か月で、向こうの大学や高校で学んだり、ホームステイをしました。その時の会話の中で、「日本の高校は1クラス何人くらい教えているのか」という質問を受けました。当時は45人学級でしたので、自分は「45人受け持っている」と答えたところ、「CRAZY」と言われました。当時のアメリカは1クラス25人くらいだったからです。「それではまともな教育はできないな」と言われました。さらに、「授業が終わった後は何をやっているのか」と聞かれましたので、「運動部の指導をしている」と答えたら、「いったいYOUは何時間働いているんだ」と言われ、一日中で部活動はほぼ無給だと答えたら、また「CRAZY」と言われました。

そこで次はこの部活動についてお話を切り替えます。

最近部活動は任意になって、中学校あたりは地域移行になっています。その理由は少子化が進み、子どもの数が減っているため、団体スポーツはチームを組むことができなくなりつつあるからです。そしてもう一つは先生方の働き方改革です。実は毎日の練習は先生方のボランティアでなっています。本校ならば16:35以後は勤務時間外だからです。そういう仕組みがもう成り立たない時代になっています。

ただ私は部活動は学校生活を充実させる一つの活動だと思っていますので、これは是非やるべきだと思います。私自身を振り返ると部活動が自分の人生に大きな影響を与えたからです。後ろに立っていらっしゃる体育の先生あたりもそうじゃないかと思っています。部活動をやってきたことを生かすためにこの世界に飛び込んだと思います。

私は小学校の頃運動があまり好きではありませんでした。中学校へ入ると部活動をやらなくては行けないと言われ、それが全部運動部でしたら、その選択に悩みました。小学校5年生の時に男子バレーボールがオリンピックで優勝したことでバレーボールをやりたい気持ちがありました。しかし当時身長が144cmで、リベロの制度もない時代でしたので諦めました。そこで一番楽しそうな部を探したところ、ソフトテニス、昔は軟式テニスと言いましたが、この部活動を選びました。確かに楽しかったし試合にも出ることでいい思い出が残りました。このため高校も軟式テニス部に入りました。

部活動運営は生徒主体で、それがきついものでした。時間の制約があつて朝コート整備、昼コート整備で、部活動終了後はランニングで走ってばかりでした。一番嫌なことは水を飲ませてもらえないことで、これは苦しかったです。本当に非科学的で、今なら熱中症ものです。私たちはタオルに水をしみこませて、それを吸っていました。そんなでしたからやめることばかり考えていました。当然ながら上手くも強くもなりません。それでも続けた理由は知らぬ間に運動能力が向上していたことです。

まず身体ですが、中学校3年から高校2年までの2年間で23 cm身長が伸びました。それに比例して足が速くなり、ボールが遠くに飛ぶようになりました。懸垂は中学校入学時は0回でしたが、20回できるようになり、持久走、1500m走るのですが、これが5分を切れるようになり、自分自身の生きていく自信につながりました。

大学では今度は硬式テニスの同好会に入ってプレーをしました。大学4年次に教員にでもなろうかと思い、大学の教員か高校の教員かどちらかを考え、高校ならテニスができるかと思い、高校の教員になりました。その後何年かなって市のテニス協会の会長を務めたり、今も高体連テニス部の専門部長を務めています。

一番楽しそうな部活動を選んだのですが、その後大きく自分の人生に影響を与えたことは確かです。自分自身の体験から部活動の重要性を感じます。

この春休みはそれぞれの部活動を頑張つて、4月以降の大会に備えてください。そして時間があれば1冊でも2冊でもいいから本を読んでください。

以上で講話としたいと思います。

(令和8年3月19日、終業式)